

琵琶湖の総合保全についてのアンケート結果

県では、2050年頃の琵琶湖のあるべき姿を念頭に、琵琶湖と人との共生を基本理念にしてマザーレイク21計画(琵琶湖総合保全整備計画)第2期改定版を策定して琵琶湖の総合保全を行っています。同計画を進めていくにあたり、暮らしと湖や川との関わりについての観点からアンケート調査を実施し、同計画の成果を評価するにおいて欠かせない基礎資料とするためお聞きしました。

調査時期：平成24年8月

対象者：県政モニター352人

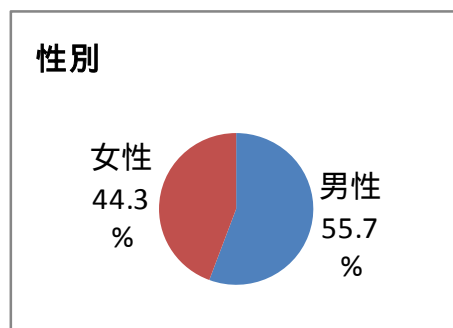
回答数：262人（回収率74.4%）

担当課：琵琶湖環境部琵琶湖政策課

【属性】

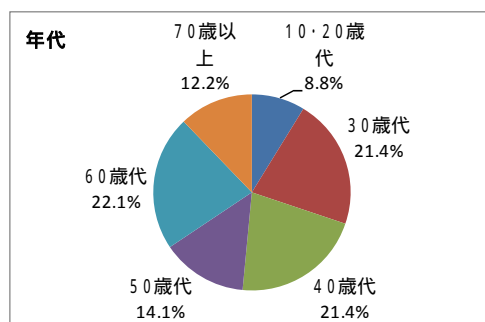
性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	146	55.7
女性	116	44.3
合計	262	100.0



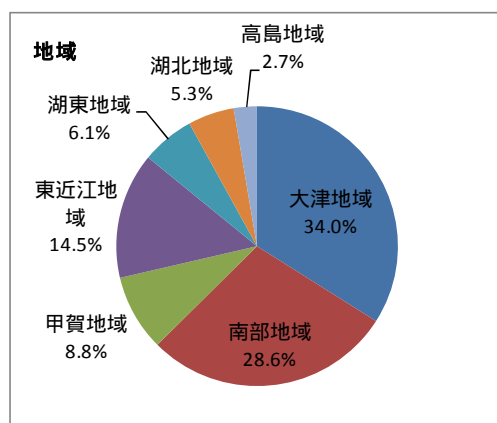
年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	23	8.8
30歳代	56	21.4
40歳代	56	21.4
50歳代	37	14.1
60歳代	58	22.1
70歳以上	32	12.2
合計	262	100.0



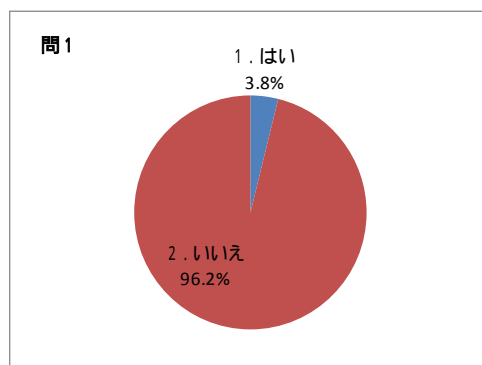
地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	89	34.0
南部地域	75	28.6
甲賀地域	23	8.8
東近江地域	38	14.5
湖東地域	16	6.1
湖北地域	14	5.3
高島地域	7	2.7
合計	262	100.0



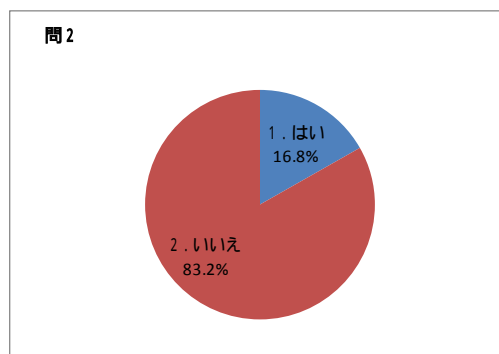
問1 琵琶湖や地域の環境を保全していくため、NPO等の環境保全団体に所属していますか。(回答チェックは1つだけ n=262)

項目	人数(人)	割合(%)
はい	10	3.8
いいえ	252	96.2
合計	262	100.0



問2 月に1回以上、琵琶湖で捕れた魚や貝類を使って料理を作り食べますか。(回答チェックは1つだけ n=262)

項目	人数(人)	割合(%)
はい	44	16.8
いいえ	218	83.2
合計	262	100.0

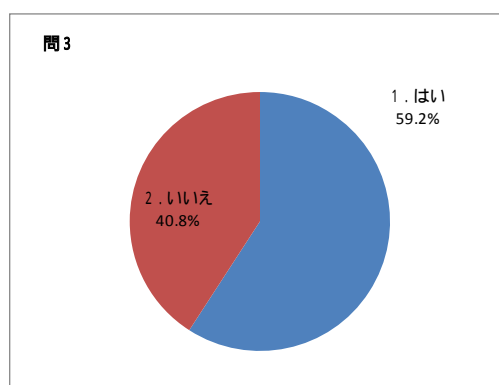


「1. はい」の場合の頻度

月1回・・・22人	月4回・・・2人
月2回・・・13人	月5回・・・1人
月3回・・・6人	

問3 家庭排水をできるだけ汚さないように、何か気をつけていますか。(回答チェックは1つだけ n=262)

項目	人数(人)	割合(%)
はい	155	59.2
いいえ	107	40.8
合計	262	100.0

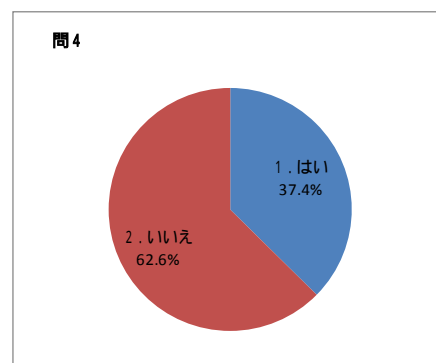


「1. はい」の場合の主な取り組み内容

- 食べ残しや油などは少量であっても、紙や布でふきとる
- 環境にやさしい洗剤を使用する
- 無洗米を使う
- お米のとぎ汁を流さない、台所石鹸、洗剤を極力使用しない
- 風呂や炊事場、手洗い場などの排水溝にはネットを使用している
- 洗濯時、粉石けんを利用している
- 生ゴミは堆肥ボックスへ入れる。
- 合併浄化槽を使用している
- 植物油を回収してもらう
- 食べ残しをしない。ソースや醤油などかけ過ぎない
- 台所で出た洗い物の水は庭に撒くようにしている
- てんぷら廃油を庭の土壌と混ぜあわせ肥料として活用している
- 食用油 廃油をガソリンスタンドで処理してもらっている
- 溜め枡を定期清掃している
- 節水や節排水に努めている
- お米のとぎ汁は庭へ、風呂の残り湯は洗濯に利用している
- 雨水を利用している
- アクリルたわしを使用している

問4 過去1年間に環境保全活動（ゴミ拾い、ヨシ刈り、川の草刈り等）や環境学習（セミナー、学習会、観察会等）に参加したことがありますか。
（回答チェックは1つだけ n=262）

項目	人数（人）	割合（％）
はい	98	37.4
いいえ	164	62.6
合計	262	100.0



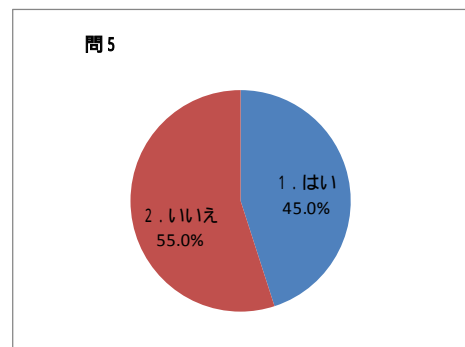
「1. はい」の場合の主な参加内容

- 河川、公園の草刈り
- 自治会のごみ拾い等
- 森林保全活動（下刈り、除伐、枝打ち、間伐、歩道整備）
- 外来水生植物の繁茂状況確認、駆除作業
- 滋賀大学彦根キャンパスでの琵琶湖流域環境セミナー
- 琵琶湖一斉清掃
- 琵琶湖の生き物観察会に参加

- ゴミゼロ大作戦
- ヨシ刈り
- 6月に蛍鑑賞等
- 地域別人権集会、健康セミナー
- ワタカ稚魚放流学習船に乗船
- 大気環境学会セミナー
- 全国星空継続観察（スターウォッチングネットワーク）
- 「大津まちなかスッキリ土隊」に登録し、年数回貼り紙を剥がしている。
- 「淡海生涯カレッジ」を受講
- 「大津市民環境塾」を主催し参加
- 2012環境フェスタ、水辺百選勉強会、
- 琵琶湖環境科学センターの琵琶湖フォーラム
- おおつ環境フォーラムの市民環境塾
- 琵琶湖博物館環境学習センター主催イベント

問5 過去1年間に琵琶湖や河川で遊んだことがありますか。
 （回答チェックは1つだけ n=262）

項目	人数(人)	割合(%)
はい	118	45.0
いいえ	144	55.0
合計	262	100.0



「1. はい」の場合の頻度

年1回・・・30人	年4回・・・1人
年2回・・・41人	年5回・・・4人
年3回・・・16人	年6回以上・・・26人

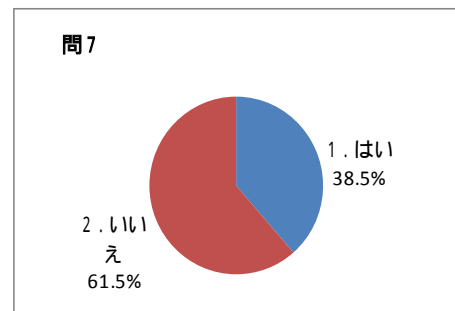
問6 琵琶湖を訪れる時はどのような目的ですか。（主な内容）

- 初夏はバーベキュー、真夏は泳ぎに訪れる。また、通年子供たちとびわ湖の景色をみて、癒されたり、びわ湖に住む動物たちや自然に会いたい、という目的で訪れる
- 生き物たちの観察(渡り鳥、季節によって移動や姿を変える魚たち)や風景と風に癒されながら、その場で食事を楽しむ時など
- 癒されたいとき。
- 散歩、ドライブ休憩など

- サイクリング
- 湖岸からの風景鑑賞
- 素晴らしい景色を楽しみ、カヌー体験により湖の状況確認。
- バーベキューや釣り
- 暇なとき、遊びたいとき、考え事をしたいとき
- 湖岸の景色を見て散歩、休息と癒し。
- ハスを見に
- 遠方の親類、友人が滋賀に遊びに来たときに案内する。
- 生まれ故郷を思い出す時や、比良の山なみにはえる夕日を見たい時
- 8月の花火を見るため。
- 潮干狩り
- 冬の渡り鳥見物
- びわ湖でイベントが開催される時、ボランティアガイドで観光客を案内する時。
- 琵琶湖景観の写真撮影と、景観を観てのリフレッシュ
- 日向ぼっこ
- 参拝(竹生島)
- 桜見物の船乗船
- 写真撮影
- 琵琶湖でシーカヤック

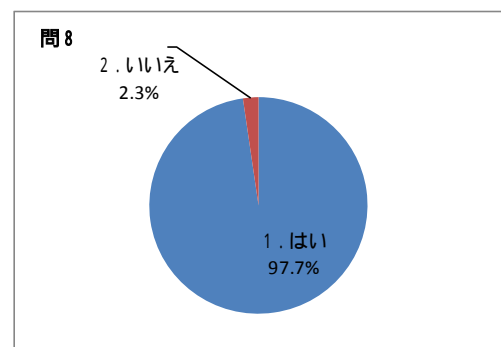
問7 自分の住む地域の洪水ハザードマップを知っていますか。
(回答チェックは1つだけ n=262)

項目	人数(人)	割合(%)
はい	101	38.5
いいえ	161	61.5
合計	262	100.0



問8 琵琶湖や河川を大切に思いますか。(回答チェックは1つだけ n=262)
また、その理由を簡潔に記述ください。

項目	人数(人)	割合(%)
はい	256	97.7
いいえ	6	2.3
合計	262	100.0



問9 理由（主な意見）

- 水辺は、多くの生き物たちが暮らす場として大切な空間であり、人間も含め全ての生き物たちが互いに係わり合いながら生きていくための大切な機能を果たしている場所。命が生まれる場所だから。
- 琵琶湖は世界有数の古代湖であり、飲用水として活用されているのは少数であり、私たちの貴重な宝であり、未来に引き継ぐ財産として日頃から大切にしなければならぬと思う。
- 理由は特にありませんが、家族を思うように、普通に大切に思っています
- 近畿の水がめであるだけでなく、重要な生態系の一部を担っていると思っているから。
- 重要な水源であるとともに、景勝、観光地でもあるため。
- 琵琶湖や河川は、私たちの生活を支え、さらには心に安らぎをくれると感じるからです。
- 生物にとって水は最も大切な資源であり、また、農林漁業等の産業には必要不可欠な資源である。
- イネの栽培に欠かせない。
- 琵琶湖は有名なため、すこしでも滋賀県の知名度を上げる効果があると思うから。
- 人口増加に伴う、河川や琵琶湖岸へのごみ不法投棄急増。つり客の不法駐車とごみ放置。滋賀で生まれ育った者には苦痛。人柄と環境に恵まれた滋賀を保守するにも皆さんの努力が必要。子供達への遺産のためにも。
- 京阪神地区の水道用水、工業用水、農業用水などを支える源としての重要な役割を果たしている。また、洪水時には調節池、渇水時には貯水池としての役割を果たしている。滋賀県民にとっての宝であるのみならず、国家の財産である。
- 「マザーレイク」の言葉がピッタシあてはまると思う。命の源「水資源」は生活・観光など生命線である。
- 水辺の涼が余計な冷房の抑止につながると思う。
- 水がめである以外に、おかげで温暖な地形だと思えます。
- 琵琶湖は京都や大阪の人に水を供給している、また豊かな河川が農林漁業を育て環境を良くしているので

問10 その他、琵琶湖の保全についてご意見がございましたらお聞かせください。

（主な意見）

- びわ湖には固有種が多く存在し、その多くが絶滅したり、危機に瀕しているをよく聞きます。なんとか固有種を守る取り組みを大々的にして欲しいと思います。また滋賀県にすむ県民がもっと、びわ湖の保全の意識を高くもてるように（特に若い世代）、日々の生活において出来ることを具体的に発信していただきたいと思います。
- 直接的であれ間接的であれ、滋賀県民や県内の産業は、琵琶湖の環境に影響を及ぼす立場にある。そのような関係者が保全に努めなければならないが、そのように取り組んでいるものたちばかりではないと考える。保全に関する啓発だけでなく、悪影響

を及ぼす行為については、ペナルティーを強化することも必要と感じる。

- 琵琶湖周辺でバーベキューなどをしている人たちもいるが、環境という面から見たら、あまりよくないのでは？ 全ての人が、ゴミとかを持ちかえているとは思えないので。レジャー地かもしれないが、規制もかけてはどうだろうか？ 南部の水は汚いのは、生活排水も原因だと思うが、他にも原因があるのでは。滋賀県で育ったわけではないですが、水面の汚れは気になります。
- 近畿の広域的給水源であるから、水質保全のための自然保護を基本に、日本一大きい湖であり、観光地としても多くの観光客を集められるように調和のとれた整備が必要。琵琶湖の湖岸は美しい自然環境の維持をベースに観光開発を進めるべき。
- 近年、上流でごみの不法投棄が目立ちます。リサイクル料の不備を認め、もっと効率的な方法を考えるべきだと思います。経済界も自社の短期的利益ではなく、持続可能な生活に転換する活動を進めることで、新しい活路が出来るのではないのでしょうか？ 消費者との架け橋として、公的に果たす役割は大きいと思います。
- 琵琶湖の水源を保っている森林の手入れが行き届いているかどうか知りませんが、材木の販売が出来るような仕組みと、湧水の販売を積極的に出来るような方策を考えてもらいたいものです。そのような取り組みをすることが琵琶湖の保全につながると思います。
- 琵琶湖を始め、身近な河川での生物が減少しています。子供の頃には、鮎・鰻・鯰・蜆・田螺等がたくさんいたのですが、河川整備に伴って居なくなっていきました。とても寂しいことですし、近江の食文化にも関わっていることです。滋賀県のウリは自然と歴史ですから、琵琶湖のみならず、各河川も含めて、自然の復活に取り組んで欲しいです。
- 私自身、元々が滋賀県出身ではないが、個人的には、滋賀県出身の人は琵琶湖を大切にしている気持ちが高いと思う。それは、誇りに持っているからではないかとおもう。ただし、特に観光や転勤などで来た人は大切にしている意識が低いのかなと思う。琵琶湖に限ったことではないが、河川なども含めて保全の重要性を啓蒙する必要があるのかなと思う。県が行っている地道な努力が、今日の琵琶湖に反映されていると思う。個人的には、よくやっていると思う。
- 外来魚駆除の教育が、生き物を大切にしましょう、という教育と矛盾するので、子どもたちへの説明に苦慮しています。
- 人工的に水質や環境を保全しようとするのは人間の浅はかな思い上がり。早急な害物の除去と自然の状態に戻すことが不可欠。湖岸人工堤の除去、レジャー用動力船の航行禁止、漁船動力の大幅な出力制限、流入河川流域の森林育成、農薬使用制限、家庭雑排水のセンター浄化の強化など
- 琵琶湖の環境保全を県民がスムーズに出来る仕組みづくりが必要。観光で訪れる浜のゴミ拾いは整備されているのだが、駐車場も整備されていない湖東の浜は特に汚れている。清掃活動参加で市民税の一部を免除する案や、県内有料施設の使用料が割引になるなど、清掃活動参加のメリットも提示し市民に環境保全活動をスムーズにする仕組みを提供する必要がある。

- 洗剤のように毎日使うものを見直すことが手っ取り早く、取り組みやすいと思いますので、今後も見直しを続けていきたいと思います。また、びわ湖で取れた魚・貝を頻繁に食卓に出すようにもしたいです。
- 3・11東日本大震災時の福島原発事故は、天災ではなく人災と言われています。人間はミスを犯すものです。琵琶湖の保全を考えるに当たって、原発銀座の風下に位置するという新たな視点が必要不可欠です。SPEEDIの警報を聞いても琵琶湖は避難出来ない。放射能は煮ても焼いても処理できない。275億トンの放射能汚染水が唯一の流出先の淀川水系に放流され最終的には瀬戸内海を汚染しつつ拡散する。国が、琵琶湖を立ち入り禁止区域に指定しても、琵琶湖集水域からの放射能汚染水は自衛隊でも阻止できない。日本国は本州の真ん中にある4,000平方キロメートル(国土の1%)を喪失するリスクを抱えています。「琵琶湖を健全な姿で次の世代に引き継いでいくことは、今を生きる私たちの大きな使命です」。滋賀県は、「琵琶湖の放射能汚染」リスクを、国および関係府県(広域連合)に強く訴え続けるべきです。
- 琵琶湖の将来を考え「琵琶湖の大切さ」を教育の場でもっと教える必要がある。「琵琶湖の保全」に携わっている団体・行政などが毎年一回は、一堂に集まり「琵琶湖の保全」を考える集会(講座など)を開催する。活動団体の横横の連携と効果あるイベント・活動の意見交換会などを開催しては...
- 琵琶湖の保全は、私たち滋賀県民を中心に今後も考えて行かなくてはならない大切なテーマです。その為の情報発信をぜひ継続的に県に要望したいと思います。また保全の取り組みについても県民レベルで出来ることがあれば、教えて頂きたい。更に近畿圏にも関係が深いので、関西広域連合等でのテーマでも取り扱いをお願いしたい。
- 琵琶湖の保全といえば一番に思い浮かべるのは外来魚の駆除。その駆除法で前から思っていたのが、ブラックバスの食用推進が何故進まないのか。ブラックバスも上手に料理したら消して不味くはないので、学校給食の食材として使用するなどもう少し、食用推進を進めるべきだと思います。
- 水上のモータースポーツ等の水を汚すスポーツからは、利用料金を取るべき。